



「宝塚大学 東京メディア・コンテンツ学部」の“今”を伝えます

2012年、宝塚大学は創立25周年を迎えました



作品名 『a traveling troupe』

作：イラストレーションコース4年 今川柚子さん（神奈川県立岡津高校出身）

引場早紀さん（東京都立工芸高校出身）

# 東京デザイナーズウィーク 2012 に初参加

### ■ブース展示

東京・明治神宮外苑の絵画館前にデザインとアートが集結するイベント「東京デザイナーズウィーク 2012」〔10月30日（火）～11月5日（月）開催、以下 TDW2012〕に、イラストレーションコースが初めて出展しました。

今回の出展は、“環境問題に対して表現者は何ができるのか”を追求すべく今年大学に立ち上げた「エコロジカル美術領域研究室（通称：エビ研）」の設立披露ともいえる展示です。

ブースのテーマは「NEST（巣）」。これは、TDW2012のテーマの“HOUSE”から想起したものであるほか、エビ研の活動コンセプト“Next Ecological Story from Takarazuka U”の頭文字に由来しています。

今回のイベントのために、ボールや割り箸、マッチ、新聞紙、庭の小枝などの身近な素材を使用して、「樹の上の巣」を模したひとつの街を制作しました。樹の上に組み立てられた巣には、いくつもの家々、電信柱とそれらを結ぶ電線、中央には何かがふ化した後のたまごの殻を配置。文明の進化を1本の樹に見立て、現在の暮らしを一つの巣で表現した立体作品です。

そのほか、「NEST」をテーマにした連作のイラスト作品やエコバッグを素材にした作品群「エゴバッグ」を展示。多様な作品の数々が展示されたブースには多くの来場者が訪れ、じっくりと作品に見入っていました。

### 北見隆教授コメント

今回、「学生の作品を外部に向けて発表・配信する機会にしたい」「新宿キャンパスの存在感、実力のある学校だということアピールしたい」と思い、参加しました。デザインやアートに興味のある方々や同業者の意見などを伺え、とても有意義な7日間でした。



ブース内の様子



(左から)「巣」の立体作品、NEST をテーマにしたイラスト、エゴバッグ

## ■「マーブリング」体験ワークショップ

期間中の4日(日)には、「マーブリングでオリジナルペーパーを創ろう!」と題したワークショップを開催しました。

“マーブリング”とは、水分に反発する描画材を水に落とし、水面上に描かれる複雑な模様や図柄を紙などに写し取る技法です。

一時間半にわたって行われたワークショップには、家族連れを中心に多くの方々に参加いただき、順番待ちの行列が絶えないほどの大盛況でした。マーブリングを初めて体験した子どもの一人は、できあがった美しい模様の紙を見て満面の笑みを浮かべるなど、多くの方々がマーブリング体験を楽しみました。



ワークショップ中の様子

学生たちは、参加者につくり方をレクチャーしたほか、水から取り出した濡れたペーパーをドライヤーで乾かすなど、積極的に参加者とコミュニケーションを図っていました。



水をはったトレイの上に、好きな色のインクを垂らします



トレイの中でつまようじを軽く動かし、模様をつくります



トレイの中の水に紙を浸します



紙を洗い、余分なインク等を落とします



紙をドライヤーで乾かします



美しい模様のオリジナルマーブリングペーパーの完成です

### 松本零士教授が「シュヴァリエ」受章

漫画家で本学の特任教授でもある松本零士さんが、芸術・文化の分野で功績のあった人物に授与されるフランス芸術文化勲章「シュヴァリエ」を受章しました。叙勲の授与式は10月24日にフランス大使館(東京都港区)で行なわれ、松本教授と親交のある多くの方々が、受章を祝福しました。

授与式では、ベルトラン・フォール同大使館文化参事官が、松本教授の経歴をあらためて振り返り、誰もがそれとわかる松本零士作品の漫画、アニメーションがいかにかにフランス国民に愛されているか、またその作品を通じて日仏の文化交流に貢献した功績について賛辞を贈りました。また、フランスは日本に次いで“マンガ”“ジャパニメーション”に対する関心が高く、「フランス政府としても今回の叙勲を大変光榮に思います」と述べました。



松本零士教授（左）とベルトラン・フォール在日フランス大使館文化参事官（右）

松本教授はスピーチの中で、自らの作品に影響を与えたフランス映画や、自身のフランスとの関りに触れながら、受章の喜びを語りました。また、「漫画というものは、世界で唯一、確執のない世界です。この共通した世界を広げていくことが私の夢です。世界の皆さんと楽しく、仲良くやっていきましょう」「プロとして今年が59年目にあたり、来年で60年を迎えますが、まだまだ頑張ります」と、今後の意気込みを語りました。



受章の喜びを語る松本教授



授与式の様子

### インターリンク・学生映像作品展

日本国内で映像制作を行う大学や専門学校、約 20 校の教員が推薦する学生優秀作品を集めた「インターリンク・学生映像作品展 (ISMIE2012)」(主催：日本映像学会・映像表現研究会)が、昨年に引き続き京都市内で開催されました (10/19～21)。

今年で 6 回目を迎える同展には、アニメーションコースから、昨年の 4 年生が制作した 3 作品がエントリーされました。作品は、「京都メディアアート週間 2012」のプログラムの一環として京都市四条烏丸の kara-S(カラス)で上映されました。

東京会場 (アップルストア銀座 3F シアートルーム) では、23 日～25 日、12 月 1 日～2 日に、作品の上映および参加校の推薦者によるシンポジウムと交流会が予定されています。

「インターリンク・学生映像作品展」は、映像制作に励む学生同士が、互いの作品を見る機会を増やすことを目的としています。作品展を通して、今日的な問題意識の差異や共通性を見出して見識を深めると同時に、学生たちの交流の場とする狙いも込められています。

#### 宝塚大学 東京メディア・コンテンツ学部 メディア・コンテンツ学科 アニメーションコース

##### 猫レストラン

(アニメーション作品、2分25秒)



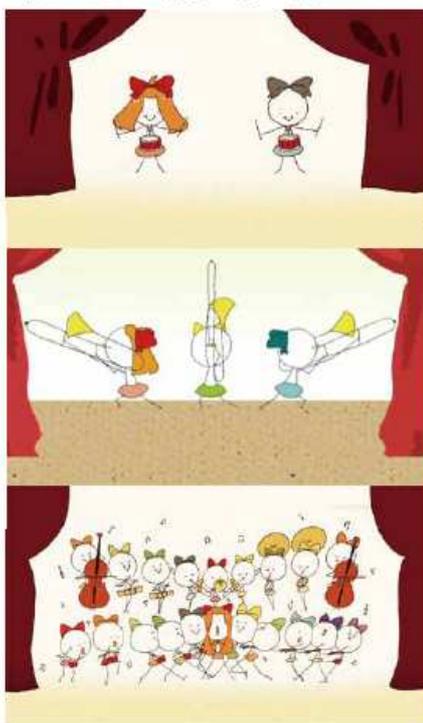
アニメーションコース (2012 年卒)

清水良太さん (埼玉県立越生高校出身)

桜井知子さん (神奈川県 日本大学藤沢高校出身)

##### ★ The Entertainer

(アニメーション作品、2分50秒)



アニメーションコース (2012 年卒)

太田奈緒さん (静岡県 常葉学園橋高校出身)

片瀬央子さん (神奈川県 横浜清風高校出身)

濱本愛果さん (東京都 関東第一高校出身)

##### ★ カエル塔立

(アニメーション作品、3分30秒)



アニメーションコース (2012 年卒)

瀬之口拓磨さん (埼玉県立越生校出身)

安藤尚也さん (愛知県立大府高校出身)

伊藤正樹さん (東京都立光丘高校出身)

# ASIAGRAPH 2012 江幡さんに「イーフロンティア賞」

ゲームコース4年の江幡直之さん（水戸短期大学附属高校出身）が制作したアニメーション作品が、ASIAGRAPH<sup>※1</sup>（10/25～27開催）の特別公募部門「REALLUSION AWARD 2012<sup>※2</sup>」において、優秀作品「イーフロンティア賞」に選出されました。

※1 ASIAGRAPH（アジアグラフ）は、アジア独自の多様な文化と、科学と芸術の融合が生み出すアジア独自の優れたデジタルコンテンツを更に発展させるために、世界の第一線で活躍するアジアの研究者とクリエイターが集い、先端技術の発表や作品の展示を行う、学術・芸術・展示が一体となった総合イベント。

※2 「REALLUSION AWARD 2012」は、台湾の REALLUSION 社が制作した映像表現ツール“iClone”と“CrazyTalk Animator”を使用して制作されたオリジナルアニメーション作品を対象にしたコンペティション。

### 川村順一学部長コメント

今回の受賞は、彼のアニメ作品のストーリーから感じられる独特の世界観、ジョークとアイロニーに富んだ表現が評価されました。今後とも、アニメの表現力の可能性を上げてくれるものと期待しております。

江幡さんの受賞作品『クチグセ』は、YouTube（下記 URL）でご覧になれます。

URL：<http://www.youtube.com/watch?v=nF7D0aJH58Y>

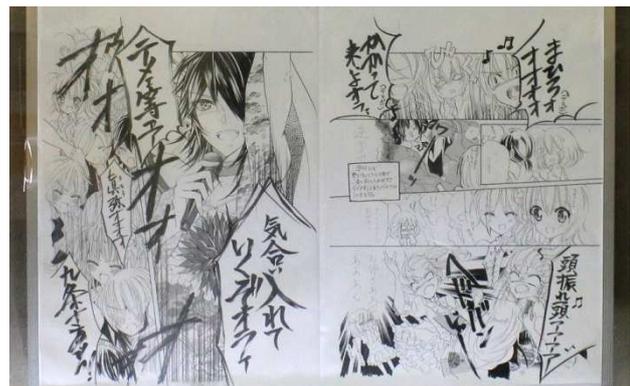


受賞作品『クチグセ』のワンシーン

## 【社会連携】 「みるっく」で作品を展示

新宿のまちのイベントをいっばいに詰め込み、新宿のまちの魅力を集中的・連続的に発信するイベント「来て・見て・楽しい 新宿フィールドミュージアム 2012」の一環として『みるっく作品展』〔9日（金）～21日（水）〕が催され、学生の作品が数多く出展されました。

新宿・大ガード下のアートスペース「ギャラリーオーガード“みるっく”」には、マンガ、イラスト、ゲーム、アニメコースの20作品以上が展示。授業の課題として制作した絵本や、「東京デザインウィーク 2012」のために制作したイラストが展示されたウィンドウを、歩行者が立ち止まっては、熱心に見入る姿が見受けられました。



ミルックに展示されたイラストコースの作品（左）とマンガコースの作品（右）

### デザインフェスタに参加

アートとデザインの祭典「デザインフェスタ vol.36」が、10、11日の両日、東京ビッグサイトで開催され、学生有志がブースを出展しました。「デザインフェスタ」は、オリジナルのアート作品であれば誰でも出展できる、アジア最大級の国際的アートイベントです。会場には、年齢や国籍・ジャンル・スタイルを問わず、10,000人以上のアーティストが集い、イベントは盛況のうちに終了しました。学生たちは、来場者にオリジナル作品を販売だけでなく、他の出展者と積極的に交流を図っていました。



オリジナルポストカードや原画の販売



出展ブースで注目を浴びたオリジナル雑貨

### 『Day Dream Believer』展に如月さんが参加

イラストレーションコース4年の如月友里佳さん<ペンネーム:夢島スイ>(神奈川県立白山高校出身)が、東京都中央区日本橋兜町のアート・ラボ・トーキョーで開催された7人展『Day Dream Believer』展〔10月15日(月)~27日(土)〕に作品を出品しました。アート・ラボ・トーキョーでの展覧会への出品は、3月に行われた企画展『花見展2』に次いで今年2回目です。



如月さんの出展作品(一部)

## HOT TOPICS—⑥

### 【社会連携】

#### 「歌舞伎町農山村ふれあい市場」に参加

新宿区の恒例行事「第7回歌舞伎町農山村ふれあい市場」が11日（日）に大久保公園で開催されました。有志の学生たちが「似顔絵描き」や「似顔絵缶バッジ作成」で参加し、多くの来場者から喜ばれました。

「ふれあい市場」は、歌舞伎町を誰もが安心して楽しめるまちに再生する取り組み「歌舞伎町ルネッサンス」の一環として、新宿区民と農山村との交流、地域振興、まちのにぎわいづくりを目的に2010年7月から定期的に行われているイベントです。

7回目の今回は、山梨県笛吹市が出店し、名産品の“ぶどう”や“ワイン”を販売したほか、石和温泉から“出張足湯”が登場。また、米粉を使った麺料理の大会「R（ライス）麺グランプリ」のチャンピオンとなった「三陸うまいつゆスープ」（宮城県・ヤマカノ醸造）などが出店しました。そのほか、日本親父バンド連盟によるライブなども行われ、会場は多くの来場者でにぎわいました。

本学は2011年9月に「歌舞伎町タウン・マネージメント（TMO）広報大使」に就任しました。今後ともTMOと協力し、歌舞伎町の魅力を広く発信していきます。



似顔絵を描く学生

### 【社会連携】

#### 「<sup>かまんど</sup>鎌人いち場」でフェイスペインティング

鎌倉海浜公園（鎌倉市由比ガ浜）で10月14日に開催されたイベント「第八回鎌人いち場」（主催：鎌人いち場実行委員会）に、学生有志が参加しました。

「鎌人いち場」は、誰でも気楽に参加できる横断的なコミュニティ「現代版市場」の復活を目的に、鎌倉NPOセンターの10周年記念事業として始まったイベントです。

5月に開催された前回に続いて参加した今回は、“フェイスペインティング”を実施。太陽や象などのかわいらしい絵をペインティングしてもらった子どもたちは、みな一様に喜んでいました。



フェイスペインティングを施す学生



多くの方がブースを訪れました

### PEACE CARD 2012 巡回展

「PEACE CARD」展は、城芽ハヤト講師が中心となり、1988年から活動がスタートしました、平和への想いを寄せ合う絵はがきを描き、展示するもので、誰でも参加可能です。今年で25年目を迎え、東京、山梨（小淵沢）、大阪、名古屋で開催され、東京展の巡回展示は学内で2日ま行われました。東京展、小淵沢「フィリア展」の展示カードに加え、イラストレーションコースの学生たちがそれぞれの大切な平和について描いたピースカードも展示され、カードには平和を願うたぐさんのメッセージが書き込まれました。



PEACE CARD 2012 東京展巡回展示（東京新宿キャンパス）

### オープンキャンパス開催

本年度8回目となるオープンキャンパスが、10月27日に開催されました。当日は、入試相談や各コースの紹介だけでなく、コース別の体験授業が企画され、多くの高校生や保護者が参加しました。また、学内の様々な空間に、学生の課題作品やオリジナル作品が展示され、参加者の目を楽しませていました。

今年最後のオープンキャンパスは12月15日（土）に開催いたします。（予約不要、入退場・服装自由）。ぜひご参加ください。



学生のオリジナル作品



オープンキャンパスの様子

### 高田講師 「幻想都市の住人たち」展

イラストレーションコースの高田美苗講師が出展した「幻想都市の住人たち」展が、大阪の「ワイアートギャラリー」で開催されました（10/9～21）。【参加作家：長野順子、高田美苗（協賛出展：アルフォンス・イノウエ）】高田講師にとって初めての大阪での展覧会で、期間中は、多くの鑑賞者が訪れ、熱心に作品に見入っていました。

#### <高田美苗>

東京生まれ 女子美術大学産業デザイン科卒。  
国際幻想芸術協会（IFAA）に所属。  
2004年 第54回板院展 新人賞受賞  
2005年 第55回板院展 院友推薦 東京国際ミニプリント  
トリエンナーレ 2005 審査員推薦作家として作品展  
2006年 第56回板院展 院友努力賞受賞  
2007年～2010年 第27回カダケス国際ミニプリント展入選  
2008年 第7回レッセドラ国際小版画展 2008 出品  
2008年 第58回 板院展 同人推挙  
個展 グループ展多数



高田美苗：「琥珀妖精 2」  
(C)Minae TAKADA. All rights reserved.

### 「Screening2012」に芦谷専任講師が参加

日本大学芸術学部映画学科 OB により設立された上映団体「東京映像旅団」の第6回上映会「Screening2012」が UPLINK FACTORY（東京都渋谷区）で開催（11/9～10）、16 作家の映像作品が出品され、芦谷専任講師の作品『among the Golden Mists』が上映されました。

#### <芦谷耕平>

1980年新潟県 佐渡島生れ、日本大学芸術学部映画学科を卒業。幼少期を横浜で過ごし、その後、北海道へ。現在は東京在住。本学で教鞭を執る傍ら、株式会社ユビキタス・エンターテインメントにてデザイナーも務めている。また、個人で映像制作・アニメーション制作、漫画制作活動を行うなど様々な分野で活躍。  
日本映像学会会員。



芦谷耕平「among the Golden Mists」  
(13分05秒／ビデオ作品) ©Ashiya Kohei

映像作品ページ（下記 URL）にて、芦谷専任講師の作品（一部）がご覧になれます。

URL：<http://www.asikoh.com/akmovie/ak3d.html>

■『among the Golden Mists』ストーリー  
極東の島国を襲った未曾有の大災害。その被害は甚大なるも、更なる恐怖が人々を蝕んでいく。その目に見えない恐怖は、徐々に徐々に、人々の身体と精神を破壊していった。ある憂国の、しかし傲慢な科学者たちは、せめて僅かばかりでも人心の救済をせんと、恐怖の可視化を試みた。

## 授業紹介

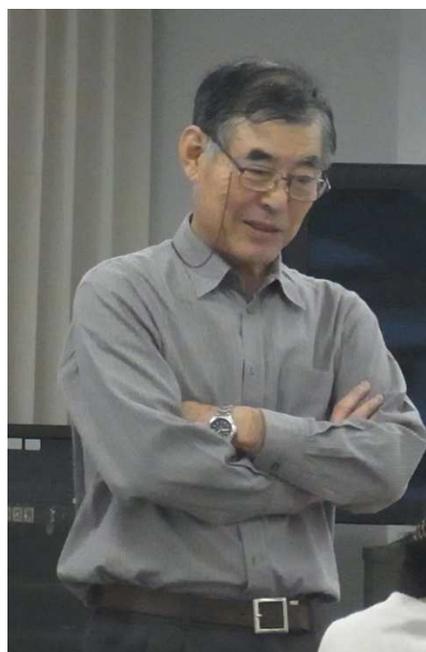
**空間表現**〔受講学年：ゲームコース2年（必修）担当教員：富江伸治講師〕

「空間表現」は、さまざまな場面・シーンや造形等の表現を行うために、「立体および3次元空間の状況を描く図法の基礎の習得」、「人間の生活空間の構成要素や態様等について分析・理解」、「『場面』のイメージの発想からその表現に至るプロセスにおいて必要となる分析・資料収集などの概略の体得」を目標にした授業です。

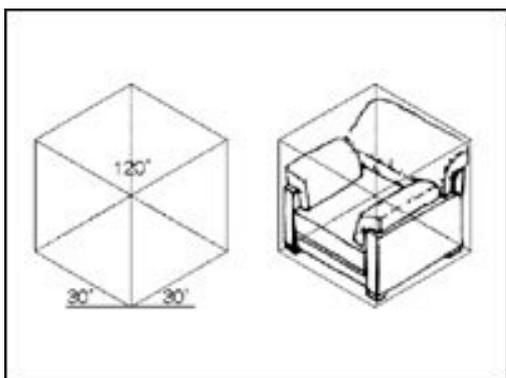
授業では、まず最初に立体の基本である“平面図”“立面図”“断面図”による作図を学習。次に、物体の高さ・幅・奥行きを3面を一画面上に投影する「軸測投象」の中の“アイソメ”（3つの直交する座標軸が互いに120度になるように描く図法）を習得。続いて、平行光線を利用して、投影面に平行に置いた物体の形を1つの投影面に斜めに表す「斜投象」の“カバリエ図”（幅：高さ：奥行きの比率が1：1：1となるように描く図法），“ミリタリ図”（立体を、底面に平行な平面に投影する図法）について学びます。最後に、3次元の物体を見た通りに2次元平面に描画するための図法「透視投象」を学習します。

その後、それらの技術を用いてワンルーム型のアトリエの設計・製図に取り組むほか、最終ステップとして、学生自らがストーリー・シナリオを作成し、その主要シーンを3次元で表現する課題に挑戦します。

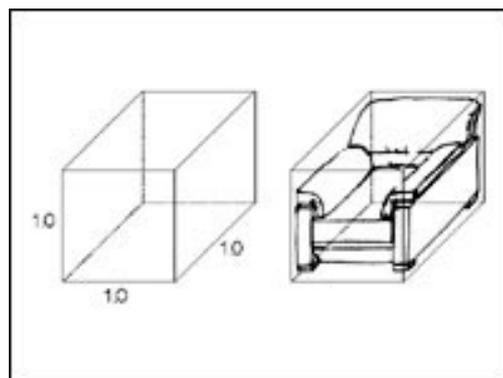
富江講師は、「立体を表現する図法が多いため、一見とっつきにくく思えるかもしれない。しかし、授業通りに段階を踏んでいけば、整理して理解できるようになる。様々な図法を習得した上で、どのように空間を描けば他の人に通じるかという点を意識しながら、課題に取り組んでほしい」と授業の心構えについて述べました。



富江講師



“アイソメ”で描いたアイス



“カバリエ図”で描いたアイス

## 教員紹介

### 吉岡章夫専任講師(ゲームコース)

## 「伝える力」を身につけ、情熱を持ってチャレンジを

ゲームコースの授業では、スマートフォンに対応する内容へのシフトが強まっています。これまでは3年次にiPhoneやAndroidなどのデバイスを本格的に授業で活用していましたが、現在は2年次で実機に触れてゲームアプリ開発の基礎を学びます。ただし、アウトプットの主流が現在はスマートフォンになっているだけであって、将来はどうか分かりません。授業は、大学1年生が3年生の就職活動時に社会で求められるであろうスキルや発想を念頭に置いて行っているため、カリキュラムも年によって常に変わります。同じスマホアプリを作るにしても、表現する方法によってアプローチの仕方が変わってくるので、開発ツールもFlashやHTML5、Xcode(iOS)を授業で扱います。



吉岡章夫専任講師

ゲーム業界は人材が不足していると言われますが、世の中にソーシャルゲームが普及してリッチコンテンツ化し、求められるスキルやアイデアなどのハードルも上がっています。そのような中、基本的なことですが、私たちは、学生たちが“自分をどうやって相手に見せるか”、“自分が制作した作品をいかに相手に伝えることができるか”という部分を重要視しています。ゲーム業界では今の学生たちが何を面白いと思っているかについて聞きたいというニーズを持っており、若手のひらめきや感性が求められていることは間違いありません。面白い企画を考え、それを伝える力があれば、若くとも企画が通るチャンスはあるということです。

「伝える力」は、就職活動や会社に入った後でも必要です。先般、東京ゲームショウに初めて大学のブースを出展しました。当日は、学生たちがブースで直接お客さんに制作したゲームの説明を行うなど、貴重な経験となりました。また、授業ではグループ制作などの後に必ずプレゼンテーションを行う場を設けており、「伝える力」を意識させるようにしています。

私が高校生の頃、同好会のようなものに顔を出しながらゲームを作り、パソコン用の自作ゲームを外部で販売していました。今はコンテンツの開発環境もアウトプット先も多様で、世界は格段に広がりました。しかし、「何か面白いものを作りたい」という情熱は、時代に左右されるものではありません。必要なスキルは大学に入ってからでも身につきます。ゲームに興味のある高校生には、ゲームという既成概念に捉われず、自分が面白いと思うことを社会に伝える力を身につけ、情熱を持ってチャレンジして欲しいと思います。

#### <吉岡章夫>

芝浦工業大学工学部卒業。ソニー・コンピュータエンタテインメントにてゲームソフトの開発に関わった後、ソニー株式会社にてユーザインターフェースのデザイン開発に従事。2007年株式会社JETMAN設立に参画。同年現職に就任し、コンテンツクリエイターの育成に取り組む。

## 学生紹介

### マンガコース 2 年

中山あゆみさん(東京都立桐ヶ丘高校出身)

## マンガを通じて“日常にある幸せ”を伝えたい

### — マンガを志したきっかけ

小学校高学年の時にクラスの友達とリレー形式の 4 コマ漫画を描いていたことが、実際にマンガを描くことになったきっかけです。小さい頃から絵を描くことが好きで、物語を自分の絵で表現したり、ストーリーを考えたりすることも好きでした。姉と兄が持っていたマンガをよく読んでいたことも影響しているかもしれません。実は、小学生の頃に作ったネタ帳もまだ持っていて、ネタに困った際にはたまに見返しています。



中山あゆみさん

### — マンガコースの授業について

マンガ制作のために必要な作画技術を学ぶ「マンガドローイングⅡ」という授業がとても役に立っています。現役の漫画家の先生に指導してもらえ、評点もしていただける貴重な場です。課題では、半年をかけて個人で短編を制作します。先生にネーム（コマ割り、コマごとの構図、セリフ、キャラクターの配置などを大まかに表したもの）を見せ、アドバイスももらいながら完成させます。最終的に、完成したマンガに対して皆で意見や感想を言い合う場があり、同じマンガを志す友達からの作品に対する辛口評価は参考になりますし、良い点を褒められるととても嬉しいです。

### — 友人とオリジナルマンガ作品を企画

現在、同じマンガコースの友人に話を持ちかけて、オリジナルマンガの制作を企画しています。私がシナリオ、ネームを担当し、友人がキャラクターデザインや作画を担当する役割分担としました。内容は、どこか欠落している部分を持つキャラクターを主人公にした童話調の 5 章からなる物語で、最終的に一つの物語につながる構成です。周囲から、最低でも 5 人以上、に「シナリオが面白い」という評価をしてもらうことを課しており、完成にはまだ時間がかかります。作品は自主制作マンガの即売会などで発表、販売したいです。

### — 今後の目標

自分が描きたいマンガの系統を具体化し、固めることです。そして、普段当たり前だと思っていて、あまり気づかない“ささいな幸せ”、“日常にある幸せ”を、マンガを通して伝えていきたいです。私は中学校の頃に、不登校になっていた時期がありました。その時に家族に支えてもらった感謝の気持ちや、人の優しさを作品でも描いていきたいです。

大学では、何か学生生活の足跡を残したいと思い、自治会委員の活動も行っています。自治会活動を行うようになってから、マンガコース以外の友達も増えて学生生活が楽しくなりました。自治会活動では、学生の生の声を聞くこともマンガを描く上で貴重な経験となっています。また、新宿区などの地域と連携した社会活動にも興味があるので、今後参加したいと思います。

## 学生紹介

### イラストレーションコース 4年

**富田千尋さん(埼玉県 東京農業大学第三高校出身)**

## 就職活動は早い時期から丹念な情報収集を

### 一 早めの情報収集

私は昔から雑貨や文房具などのかわいい小物が大好きで、念願が叶い、ファンシーグッズの企画・デザイン、販売を手がける企業からデザイン職の内定をいただきました。自分でキャラクターを考案して、子供向けから大人向けまで色々と挑戦できるので、今からとても楽しみです。

雑貨や小物を扱う会社で、しかも新卒のデザイン職の募集となると採用人数は数名というところが少なくありません。就職活動の困難さはある程度想像していたので、私は入学当初から気に入った雑貨や小物を見つけると、その商品の販売元やメーカーを調べてリストアップするようにしていました。企業のホームページなどで採用情報や募集時期をこまめに調べるようにしていたので、就職活動が本格化する時期になってから焦ることは少なかったと思います。それでも、内定をいただくまではとても不安でした。結果的に実行に移しませんでした。企業の新卒採用活動が集中する時期が終わっても内定が出なければ、リストアップした新卒採用の募集をしていない企業に直接電話をしようと考えていました。



富田千尋さん  
株式会社カミオジャパン内定

ネットを使った企業の情報収集はもちろん大切ですが、私は実際に多くの雑貨店や文房具店、ファッション雑貨を扱うショップに足を運び、今何がはやっているかを常に確かめるようにしていました。実際に企業の面接で聞かれそうなことを念頭に置いて商品や店内を観察すると、違った視点で世の中を見られるようになると思います。大学が新宿にあるメリットを活かし、デパートや様々なショップでかわいいショーウィンドウを見つけると、携帯電話のカメラで撮っておくようにもしていました。

### 一 就職活動で苦労したこと

苦労した点は、自分が“何を求められているか”ということ踏まえた上での企業分析です。一生懸命準備したエントリーシートや課題制作であっても、企業が求めるものから外れたら意味がありません。私が受けた会社では、課題制作の審査の後にポートフォリオ（作品集）を提出することが多かったのですが、ポートフォリオに入れる作品や見せ方も企業ごとに変えました。ポートフォリオには、授業の課題作品以外にも落書き防止活動の一環として新宿大ガード下歩道の壁画制作に携わったことや、新宿区の様々な活動に参加したことも入れました。就職活動が全ての目的ではありませんが、様々な話のネタを持っていることで、面接時やエントリーシートを書く際に役に立ったと思います。

また、就職活動全般を通じて、就職活動時の心構えや個別の企業の面接対策について、就職支援室のカウンセラーやイラストコースの先生たちに何度も相談に乗っていただきました。就職活動を支えてくれた全ての方々に感謝しています。



富田さんのポートフォリオ

## 今後の予定

---

### ■ 宝塚大学 東京メディア・コンテンツ学部「オープンキャンパス」

日 時：12月15日（土）13：00～16：30

内 容：学校紹介、入試説明、コース紹介、相談コーナー、作品展示、アプリ体験コーナーなど

※オープンキャンパス特設サイトを公開中

<http://www.takara-univ.ac.jp/tokyo/opencampus/>

### ■ 「歩展 2012」

日 程：11月24日（土）～29日（木）

時 間：11：00～18：00（最終日13:00まで ※日曜休館）

会 場：山脇ギャラリー（東京都千代田区九段南）

内 容：“アートを楽しむクリエイティブな仲間展”をコンセプトに、漫画家、イラストレーター、画家、アニメーター、デザイナー、主婦、学生の作品を展示。本学からは、たちばないさぎ講師の他、学生、卒業生が参加。

### ■ 「Chaos（カオス）」展 ～果てしない美と時の迷宮への誘い～

日 程：12月7日（金）/8日（土）/14日（金）/15日（土）/21日（金）/22日（土）/28日（金）

※金・土曜日みの開場となります

時 間：13：00～19：30

会 場：ギャラリー オル・テール（東京都中央区京橋）

内 容：浅野勝美、井関周、本学の高田美苗講師による三人展。

高田講師は新作を含む6点を出展します。





www.takara-univ.ac.jp

### 東京 新宿キャンパス

東京メディア・コンテンツ学部 | 大学院  
〒160-0023 東京都新宿区西新宿七丁目11番1号  
TEL.03-3367-3411 FAX.03-3367-6761  
[E-mail] tokyo@takara-univ.ac.jp



### ■ 周辺マップ



4

#### <宝塚大学 東京メディア・コンテンツ学部に関する情報のお問い合わせ>

宝塚大学 東京 新宿キャンパス 広報室  
担当: 金澤、山本 TEL:03-3367-3411

#### <ご掲載・写真データ等に関するお問合せ>

宝塚大学 東京メディア・コンテンツ学部 広報事務局 共同 PR 株式会社  
担当: 江頭、高橋 TEL:03-3571-5228